

トピックス②

災害が起こる前に

ハザードマップの確認

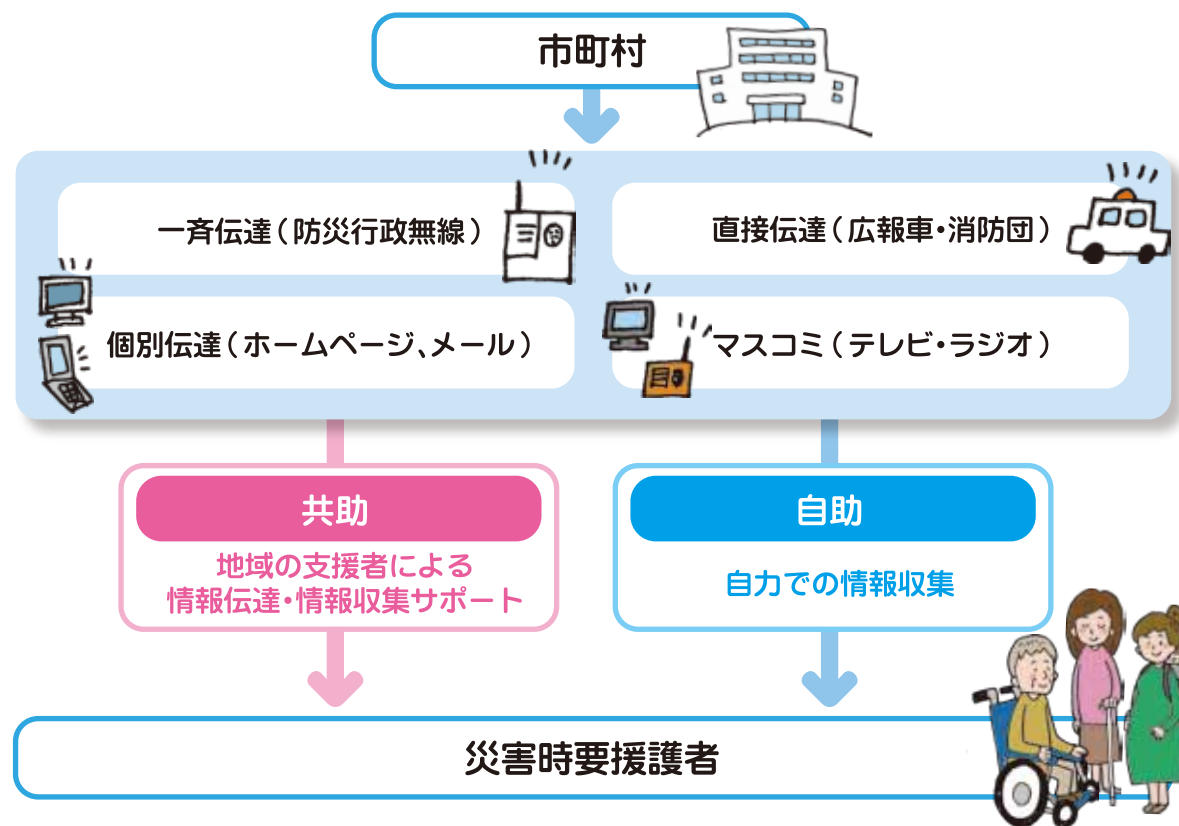
お住まいの地域の危険箇所（過去に浸水した場所など）をハザードマップで確認し、実際に歩いて危険箇所を把握し、避難経路を検討してみましょう。

※ハザードマップは各市町村からご家庭に配布されていたり、市町村のホームページで確認できます。
※地域の避難訓練などに要援護者と一緒に参加し、避難にかかる時間を確認したり、避難経路の安全性を検討しておくことが効果的です。



情報の収集や伝達方法の検討

- 高齢の方などは、防災行政無線や広報車などによる避難呼びかけを聞いていなかったり、聞こえていても内容を理解していない場合があります。支援者による丁寧な情報伝達の方法を事前に検討しておきましょう。
- 気象情報の収集についても、簡単にできる方法を支援者が紹介し、実際に一緒にやってみるなど、事前にできる支援があります。（P23資料1「防災情報の収集」参照）
- 視覚・聴覚に障がいのある方や知的障がいのある方などには、その方に適した手段で情報を伝えることが必要です。聴覚障がい者用受信装置や受信メール読み上げ携帯電話など多様な方法がありますので、要援護者と一緒に検討しておきましょう。



トピックス③

避難後の安否確認のために

災害発生後、行政や消防団などによる、住民の安否確認が行われます。

避難する時、自宅の目立つ場所に、避難済みであることを書いた張り紙をしておく、安否確認がスムーズに行われ、2次災害の防止につながります。

張り紙の例
・熊本太郎は、〇〇小学校へ避難します。
・避難支援者の〇〇さんと一緒にいます。
・連絡先〇〇〇-〇〇〇〇
・ガスの元栓閉めました。
・電気のブレーカー落しました。

※張り紙用の大きな紙、油性マジックペン、テープを非常持出品と一緒に置いておきましょう。
※住民が避難した住宅で盗難に遭う事例が発生しています。「避難済み」の張り紙の掲示については、地域で検討したり、災害の状況にあわせて判断することが必要です。



トピックス④

過去の体験に学ぶ

熊本広域大水害（平成24年7月12日）の体験

熊本市北区 龍田校区第5町内自主防災クラブ
会長 高田敏明 さん



午前6時30分、白川がすでに危険な水位でしたので、自主防災クラブの役員を公民館に集め、手分けして住民に避難を呼び掛けました。同8時過ぎ、避難していた公民館にも水が押し寄せてきて、あっという間に公民館も床下浸水しました。

そのころ避難が遅れた数人の住民が公民館を目指し、腰まで水に漬かりながらやって来る姿が見えました。その中には、幼児を抱いた母親や高齢者もいました。大変危険でしたので、付近の建物の2階などへ避難するよう、拡声器を使い叫びました。

やがて雨も小降りになり、同10時前には水が引きました。それで緊急車両を通すため、急いで道路の復旧作業を行い体が不自由な高齢者の一時避難先を探しました。その後、避難して3日目に公民館に市の対策本部が置かれました。

災害を経験し、日頃の住民同士の付き合いの大切さ、自主防災クラブの必要性を感じました。今後は、この災害を風化させることなく、学んだことを自主防災活動に生かしていきたいと思っています。



龍田校区第5町内の避難所は床下浸水
平成24年7月、牧鶴公民館
（写真は高田敏明さん提供）